

政策整理番号 33

評価シート(B)

対象年度	H17	作成部課室	土木部空港対策課	関係部課室	土木部臨空地域整備推進課
------	-----	-------	----------	-------	--------------

政策番号	4 - 10 - 1	政策名	国内外との交流の窓口となる空港や港湾機能の強化
------	------------	-----	-------------------------

施策番号	1	施策名	仙台空港の機能の強化と活用
------	---	-----	---------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効 **概ね有効** 課題有

【政策評価指標達成状況から】有効
 ・指標名:仙台空港利用者数(国内線,国際線) 達成度 A
 ・(達成状況の背景) 国内線は若干増加しているが,国際線に対しては外因や航空会社自体の動向などの影響を受け減少した。
 ・(達成度から見た有効性)平成15年度の大きな落ち込み分については平成16年度に続きほぼ回復し,仮目標値も達成した。

【政策満足度から】概ね有効
 ・満足度は50点だが,満足度60点以上の割合は44%でそれほど低くないため,ある程度の満足を得ている。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】概ね有効
 ・国際線については,中国や韓国の反日運動や航空会社のストなどもあり,利用者数が若干減少したものの,2路線(台北線,大連経由北京線)については増便されていることから,一定の施策の有効性が認められる。

【総括】
 ・国内線は微増を続けており,国際線利用者数も平成15年度からの回復を見た。また指標値の目標達成には至らなかったが,国内路線の新規就航(神戸線)や国際線の増便(台北線,大連・北京線)が見られる等,一定の施策の効果が認められる。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	仙台空港国際空港化促進事業	6		
2	主	仙台空港新貨物ターミナル建設等促進事業	7		
3			8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号,4号

適切 **概ね適切** 課題有

【国,市町村,民間団体との役割分担】適切
 ・(国)空港を直接管理,整備している。
 ・(県)国との連携に努めているほか,仙台空港国際化利用促進協議会(以下「協議会」)に主体的に参画し,利用促進策や航空会社へのセールス等を展開している。
 ・(市町村)仙台市や空港所在市が協議会に参画している。
 ・(民間団体)仙台商工会議所等の関係団体が協議会に参画している。また,航空会社,空港ビル運営会社,航空貨物取扱会社はそれぞれ独自に利用促進を図っているほか,協議会にも参画している。
 ・本施策に係る事業群は上記役割分担に沿って設定,実施されている。

【施策目的を踏まえた事業か】適切
 ・既存路線維持,運休路線再開,新規就航路線開設等の目的達成のため,適切に各種事業を展開している。

【事業間で重複や矛盾がないか】適切
 ・対象や狙いにより事業は適切に設定されており,重複や矛盾する事業はない。

【社会経済情勢に適応した事業か】概ね適切
 ・年々拡大している多様な国際交流に対応する事業である。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性)概ね適切
 ・かい離度は10と大きくないが,空港の基本機能である路線の維持,拡充のため引き続き各事業の推進が必要である。

【総括】
 ・本施策の事業設定は概ね適切と判断するが,社会経済情勢への対応は個別具体的に航空会社等と情報交換しながら検討する。

施策番号	1	施策名	仙台空港の機能の強化と活用
------	---	-----	---------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

【施策満足度から】有効
 ・施策満足度は60点で、事業群の有効性は確認できる。

【政策評価指標達成状況から】概ね有効
 ・指標については、目標値は達成したものの、平成16年度と同程度の水準の維持であり、ようやく14年度の数値まで回復したところである。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】概ね有効
 ・SARSや鳥インフルエンザ等の疾病流行時からの回復、新規路線の就航や国際線の増便等、一定の有効性が見られる。
 (新規路線:神戸線H18.2,国際線増便:台北線(2便 4便)H18.1,大連經由北京線(2便 3便)H18.3)

【業績指標推移から】課題有
 ・各事業の業績は概ね増加したものの、取扱貨物量は減少した。

【成果指標推移から】概ね有効
 ・空港利用者数は前年度より増加しており、外因により大きく減少した平成15年度以前の水準までほぼ回復しており、一定の有効性を示している。
 ・仙台空港新貨物ターミナル(仙台エアカーゴターミナル;以下「SACT」)は、物流業者が共同で利用できる通関機能等のサービスを一定水準で維持・提供しているが、貨物専用便のストライキ運休等の影響を受け、仙台空港取扱貨物量は平成16年度と比し減少した。

【総括】
 ・施策満足度の状況、社会経済状況下での回復度、成果指標の動向から、一部課題はあるものの、事業群の有効性が概ね示された。

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的	概ね効率的	課題有
-----	-------	-----

【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】概ね効率的
 ・指標値の回復状況を見ると、業績指標、成果指標との相関において、ある程度の効率性が伺える。

【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】効率的
 ・中国及び韓国で反日運動や航空会社ストライキがあった一方、国内線の新規1路線の就航、国際線2路線の増便があり、業績指標、成果指標との相関において、効率性が確認できる。

【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】概ね効率的
 ・事業費はいずれも見直しを図り効率性を高めている。特に、協議会負担金の効率性は向上している。

【総括】
 ・政策指標データは、施策の目指す数値を達成するには至らないものの回復が見られる。また、事業全体の業績指標、成果指標との相関においては、事業内容の見直しと事業費削減を図りながら、なお新規路線の就航や増便も見られ、事業群については一定の効率性が確認できる。

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

・B-1社会経済情勢への対応等事前に設定しにくい要素もあるが、本施策の事業設定は概ね適切と判断する。
 ・B-2施策満足度の状況、社会経済状況下での回復度、成果指標の動向から、一部課題はあるものの、事業群の有効性が概ね示された。
 ・B-3政策指標データの回復、満足度の維持、事業全体の効率性、新規路線の就航や増便等を勘案し、事業群については一定の効率性が確認できる。
 ・政策評価指標の目標値達成に向け、引き続き、航空会社、旅行者、関係事業者を対象とした事業展開とその効果を計る方法の模索が必要と考える。

事業分析カード(業績)

対象年度	H17	作成部課室	土木部空港対策課	関係部課室	土木部臨空地域整備推進課
政策番号	4 - 10 - 1	政策名	国内外との交流の窓口となる空港や港湾機能の強化		
施策番号	1	施策名	仙台空港の機能の強化と活用		

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果

事業番号	事業名 【担当課室名】	H17 事業費 (千円)	事業の対象 (誰・何を対象として、具体的に)	事業の手段(内容) (何をしたのか、具体的に)	業績指標名 (事業の活動量。「事業の手段」に対応)	事業費(千円)		
						H15	H16	H17
						効率性指標 (3.5E-02は3.5 × 10 ⁻²)		
1	仙台空港国際空港化促進事業(仙台空港国際化利用促進協議会負担金) 【空港対策課】	8,700	一般利用者 航空会社 旅行代理店 等	協議会活動経費の負担(活動内容:空港PRや航空会社等支援のためのイベント開催,各種情報提供,旅行代理店支援など)	PRイベント回数	3 6,900 4.3E-04	3 9,600 3.1E-04	14 8,700 1.6E-03
1	仙台空港国際空港化促進事業(海外エアポートセールス旅費) 【空港対策課】	2,107	海外の航空会社,相手国の航空当局	関係者に対する空港PR・各種要望,関連情報収集・発信,意見交換等	海外セールス	4 1,771 2.3E-03	2 634 3.2E-03	4 2,107 1.9E-03
1	仙台空港国際空港化促進事業(仙台空港利用促進事業) 【空港対策課】	1,501	航空会社等	関係者に対する空港PR・各種要望,関連情報収集・発信,意見交換等	国内セールス	27 1,784 1.5E-02	13 1,167 1.1E-02	20 1,501 1.3E-02
1	仙台空港国際空港化促進事業(仙台空港国際航空貨物取扱補助) 【空港対策課】	0	物流会社	国際貨物のSACT通関量に応じた貨物集荷経費補助(平成13年度から15年度までの期間限定実施)	SACT通関貨物量(トン)	8,474 3,131 2.7E+00	5,250 0	4,482 0
2	仙台空港新貨物ターミナル建設等促進事業(貸付金) 【空港対策課】	250,000	SACT	SACTの新貨物ターミナル建設時の資金貸付(毎年度末全額返済後,次年度に返済相当額を減額して再貸付している)		350,000 0.0E+00	300,000 0.0E+00	250,000 0.0E+00
6	[]							
7	[]							
8	[]							
9	[]							
10	[]							
	[]							
	[]							
	事業費合計	262,308						

対象年度	H17	作成部課室	土木部空港対策課	関係部課室	土木部臨空地域整備推進課
------	-----	-------	----------	-------	--------------

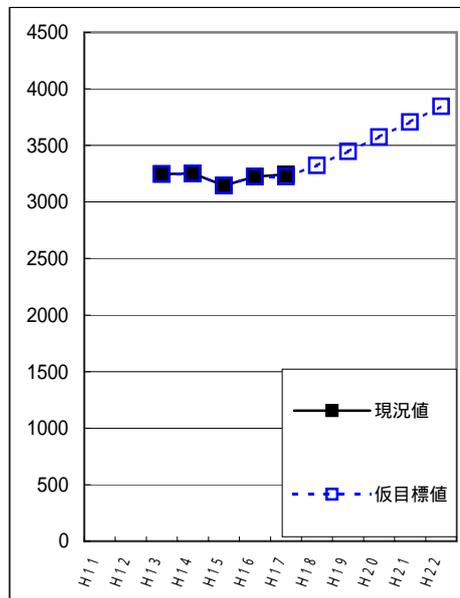
政策番号	4 - 10 - 1	政策名	国内外との交流の窓口となる空港や港湾機能の強化
------	------------	-----	-------------------------

施策番号	1	施策名	仙台空港の機能の強化と活用
------	---	-----	---------------

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
仙台空港利用者数(国内線、国際線)		千人						
目標値	難易度	H17	3,223	H22	3,844			
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H13	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
現況値 (達成度判定値)	3,246			3,246	3,253	3,144	3,223	3,245
仮目標値				3,246	3,253	3,144	3,223	3,223
達成度								A

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・本県において国内外との交流が活発に行われ、仙台空港の機能が十分に活用されていることを表す指標として選定した。

(3) 施策満足度の推移

年度	H17	参考: 第2~4回の推移			
施策重視度(中央値、点)A	70	H16	H15	H14	
施策満足度(中央値、点)B	60	70	70	70	
かい離 A-B	10	60	60	60	
満足度60点以上の回答者割合(%)	52.3	10	10	10	
		63.4	59.3	57.1	

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第2~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

達成度: A
 ・政策評価指標の達成度については、H17に実施した「需要予測の見通し」に基づき目標値を修正したことからA評価となるが、依然としてH15に落ち込んだ国際線利用客が完全には回復せず、利用者総数としては微増にとどまった。
 ・国際線利用客は、SARSや鳥インフルエンザ等の特殊事情に加えて、香港線・ホノルル線の運休により、平成15年度に大幅に落ち込んだ。
 ・H16以降は、特殊事情の沈静化及び台北線の新規開設・増便に加え、堅調な国内線においても神戸線が新規開設されるなど、需要も回復基調にある。
 ・よって、引き続き空港アクセス向上施策を推進するとともに、既存路線の安定化、拡充並びに新規路線の開設を進め、目標値に近づけるよう努める。

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続 要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】
 ・本施策の各事業群は、現在そのストック形成期にあるため指標の向上に必ずしも効果的と言えないが、施設完成供用後には長期にわたりその効果が発揮されると考えられる。
 ・仙台空港利用者数は、本県において国内外との交流が活発に行われ、仙台空港の機能が十分に活用されていることを表す指標として選定したものであり、施策の最終目標として有効であることから存続とする。なお、事業進捗率を補充指標として、適切な進行管理を図っていく。
 ・政策評価指標の目標値については、H17に実施した最新の社会経済情勢に基づく需要予測の見通しに基づき、今回修正した。

施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 33

対象年度	H17	作成部課室	土木部空港対策課	関係部課室	土木部臨空地域整備推進課
政策番号	4 - 10 - 1	政策名	国内外との交流の窓口となる空港や港湾機能の強化		
施策番号	1	施策名	仙台空港の機能の強化と活用		

C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

<p>[政策評価] 施策群設定の妥当性, 施策群の有効性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標(仙台空港利用者数)の目標値を達成するため, 引き続き重点的に施策群を実施する必要がある。 ・特に, 航空機利用者の増加のため, アクセス鉄道の開業等の関連事業を意識・活用し, 近隣県も対象としたPR活動を行う必要がある。 <p>[施策評価] 事業群設定の妥当性, 事業群の有効性, 効率性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際線休止路線再開及び新規路線の就航のため, 航空会社等へのセールス活動を引き続き重点的に実施する。 ・新規就航した路線や増便路線の安定・向上のため, 海外からの集客力を向上できるよう, 国や本県の観光施策との連携が必要である。 ・航空貨物量の増加を図り, 総合的に魅力ある空港とするため, 関係航空会社との情報交換を密にし, 荷主や運送代理店へのPRを行うとともに, 貨物ターミナル機能の充実を図る必要がある。
--

C - 2 施策・事業の方向性

施策の次年度(H19年度)の方向性とその説明

方向性	拡充	維持	縮小
-----	----	----	----

<p>[方向性の理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に変化する国際経済情勢に的確に対応し, 安定的に発展させていくため, 施策は可能な限り拡充を図ることが必要である。 <p>[次年度の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き仙台空港の利用促進を図り, 旅客需要を喚起するため, これまで以上に積極的・効果的に施策を維持・展開するべきである。 ・特に, 利便性の大きな向上につながる空港アクセス鉄道の開業が平成18年度末に予定されることから, その情報を空港PR活動の際に盛り込み, 利用者増に結びつける施策を展開する。
--

主要事業・重点事業の次年度(H19年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名	H17決算見込額(千円)	方向性	方向性に関する説明
1	主	仙台空港国際空港化促進事業	12,308	拡充	・タイなどの新規路線の開業, 香港やホノルルなどの運休路線の再開実現を念頭に, 引き続き誘致活動を行う必要がある。 ・平成18年度末開業予定のアクセス鉄道を空港機能と一体的かつ積極的にPRすることにより, 仙台空港の利便性を周知する。 ・鉄道の活用については, 山形県や福島県などの近隣県からの利用増につながる要素であり, 近隣県に効果的にPRする。
2	主	仙台空港新貨物ターミナル建設等促進事業	250,000	維持	・SACTは, 建設当時の県からの長期債務を年間5千万円ずつ計画的に返還しており, 会社の計画的経営のためにも, 返還が終了する平成20年度までは当初予定どおり事業を維持する。 ・SACT機能は空港機能の一部であり, 総合的な空港機能の維持が, 結果として旅客需要や貨物需要の増加に貢献するものである。
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
		合計	262,308		